

海ごみから流域環境を考える プロジェクト

LOVE BLUE助成

3年目

実践

シンポジウム参加者	73人
海底探検隊参加者	93人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	75%



水揚げされたごみの分別・計量

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

海底にごみが存在するのを実感していただくだけでなく、参加者のその後の行動様式の変化につながるよう、全体の構成を考えたこと。

■ 工夫した点

引き揚げられたごみを見てもらったあと、何故海底にごみがあるのかをワークショップで考えていただくなど、進行上の工夫を心がけた。

課題

海底に多量のごみが堆積している状況はほとんど知られていないため、ポイ捨てなどが次のごみの発生を生んでいる。

目標

県民の意識と行動が変わり、生活環境でのごみの不法投棄などが減少する。これによって、河川・海底へのごみの流入が減少し、海底ごみの堆積量が減少に転じる。

活動内容と成果

- 広く県民の環境保全意識を醸成するため、マイクロプラスチックなどをテーマに学識経験者を交えたシンポジウムを開催した
- 海ごみの発生抑制を目的として、底曳網船による「海底ごみ回収体験学習」を行ったうえで「ワークショップ」などの啓発活動を二回実施した。日生ではマイクロプラスチックの採取も試みた。海底ごみが日常生活につながる問題であるとの認識を共有できた
- 県内の一級河川におけるごみの状況について、各種団体と連携して情報を収集するとともに、河川清掃を実施しプラスチックゴミなどを回収した



身近な河川敷にもこれだけのごみ。



磯辺教授による熱のごもった講演

全助成期間の活動を振り返って

世間あまり知られていなかった海ごみ問題も、この間の取組みを通じて徐々に認識が広がってきたように感じる。政府も廃プラスチック対策に動き出すなか、私たちの活動の重要性も高まっている。

しかし、住民意識を変えていくことの困難さも浮き彫りとなり、日常生活における「ポイ捨て防止」などの環境保全意識の向上につなげるためには、さらなる活動の強化と創意工夫が必要であったと感じている。

| 活動地域 | 岡山県

〒702-8011 岡山県岡山市南区郡12-2
電話：086-267-2478
E-mail：gpokayama2011@gmail.com
<https://green-partner.jimdo.com/>



今後の展望

地方自治体などが行う各種施策にも協力しつつ、特にマイクロプラスチック問題への認識をより一層深めてもらうよう、住民への啓発に力を入れていきたい。そのためにも、沿岸・流域自治体との連携はもとより、河川や海岸の清掃に取り組んでいる団体などの連携を図り、海ごみやマイクロプラスチック問題に取り組む人々のネットワークの拡大を図っていきたい。助成いただいた3年間の活動を糧として頑張っていきたい。